

やすらぎの物語の宝庫

権現山ごんげんざんの魅力みりょくを一言で表現すると、「物語の宝庫である」ということだろうか。古墳時代こふん、中世ちゆうせい、近世きんせい、そして近現代に至る歴史の中で、絶えず人々の営みの風景の中にこの山は溶け込んできたといえるだろう。

大切に思う対象しんこうや信仰しんこうの場、さらには哀しみかなの癒し場いやとして広島デルタ地帯に住む人々へ安心できるというやすらぎ空間を与え続けてきた。その空間には、やすらぎの物語ちくせきが蓄積しているのである。

見晴らしのいい場所にある古墳時代の集落遺構しゅうらくいこうからは、当時のほのぼのとした日々を思い出し、懐かしむことができる。また中世から信仰なつされて

いる毘沙門堂びしゃもんどう界隈の参道さんどうには、現世利益げんせいりやくを強く願う人々で賑わった名残なごりが未だいまに漂ただよっている。そして原爆犠牲者げんぼくぎせいしやを供養する多宝塔たほうとう周りの木々には、故人こじんの供養いのと平和を願う無言の祈りこだまが木霊として宿っている。

やすらぎの物語の宝庫である権現山は、現在、広島市民の「憩いこいの森」として親しまれており、普段見過ごしがちになる「心の憩いこい」を取り戻す大切さを現代の私たちに教えてくれる里山ではないだろうか。

(里地里山歩きのプロ・清水正弘氏)





仁王門をくぐり、初寅祭へ（令和5〈2023〉年2月4日）



石段を登る一步一步を七福神が見守ります（大黒天）



生い茂る杉林の中には、樹齢百年を数える大杉も



石段の途中には縁結岩もあります

金運アップ!? 商売繁盛の神さまにお参りしてみよう

権現山のふもとには仏教の守護神4人のうちの1人、毘沙門天を祀る「毘沙門堂」が建っています。毘沙門天は商売繁盛、縁結びの福の神、また七福神の1人として信仰を集めています。行基という人が作ったといわれる毘沙門尊像は年に一度、旧暦初寅前の土・日曜日の「初寅祭」で御開帳されます。

- * 1 行基：飛鳥時代から奈良時代にかけて活動した日本の仏教僧
- * 2 旧暦：昔ながらの日本の暮らしの暦
- * 3 初寅：日にちにはそれぞれ十二支が割り当てられていて、寅にあたる日を「寅の日」といいます。12日ごとに巡ってくる吉日で、初寅は一年の最初に来る寅の日です
- * 4 御開帳：寺・神社で貴重なものを公開すること



びしゃもんどう ほんどう
毘沙門堂の本堂。初寅祭には多くの参拝客が訪れます



両手が届けばその年の福を授かるという福石



とら しゅじょう びしゃもんてん
寅は衆生（生きるものすべて）を救う毘沙門天の使いといわれます



御本尊は毘沙門天王です



たほうとう
多宝塔からは広島市を一望できます



ひしゃもんどう こんぼうだいしぞう
毘沙門堂境内の弘法大師像

四季折々の表情を愉しむ^{たの}

春になれば^{ごんげんざん}権現山の日当たりのよい斜面に桜が咲きみだれ、花見に訪れる人が絶えません。夏は^{りよくいん}緑陰が爽やかな風を送り、秋になれば紅葉が^{にしき}錦のように山を彩ります。ドングリを集めながら歩いてみるのもよいでしょう。整った道は冬でも歩きやすく、自然が私たちが^{でむか}温かく出迎えてくれることでしょう。

* 5 緑陰：青葉が茂（しげ）った木々の陰

* 6 錦：いろいろな色の糸で織った高級な織物のこと



斜面に咲く見事な桜



初夏に白い花を咲かせるエゴノキ



足にやさしく歩きやすい遊歩道



山頂の駐車場周辺は桜の名所



たほうとう
多宝塔周辺も紅葉が鮮やか



おねみち
尾根道に沿って岩が露出しています



緑陰の中を歩きます



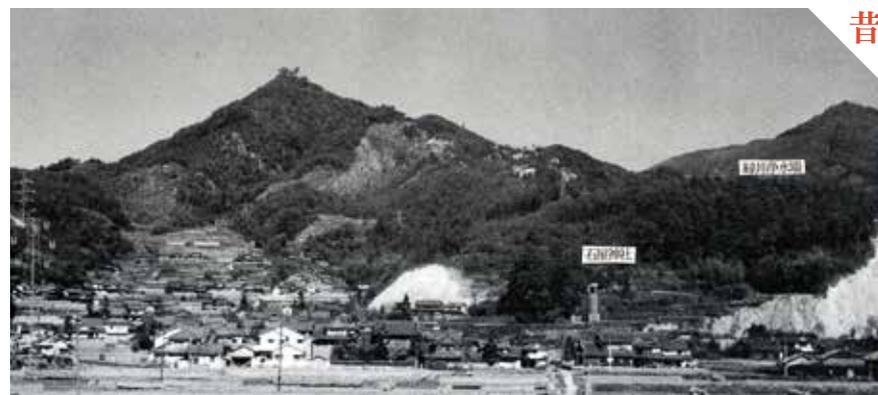
木々が織り成す秋色（頂上付近）

権現山の「昔と今」を比べてみよう

権現山とその周辺は古くから開け、人口が集中する広島へ野菜や米を出荷して人々の食生活を支えたり、太田川の舟運（舟による交通や輸送）や街道が通る要所でした。今もベッドタウンとして多くの人が暮らし、高速道路や鉄道など時代につれて形は変わっても、交通機関が接続する重要な地点として発展を続けています。

*7 ベッドタウン：大都市周辺の住宅地域

街並み全景



昔

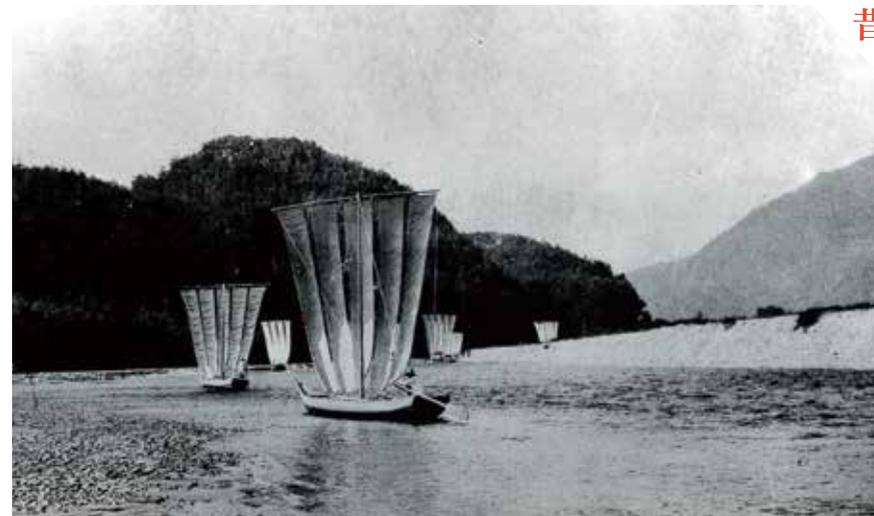
写真右手の山裾に見える緑井浄水場は、昭和44（1969）年から多くの方が使用しています。かつては南側の山のふもとに田んぼが広がり、稲刈りの後にはハデ干し（天日干し）をしていました（左、権現山。写真は『想いでの佐東町2』佐東地区まちづくり協議会、平成11年より掲載）



今

一帯はビルや住宅が建ち並ぶ市街地となり高速道路、アストラムラインなどが走っています。住宅地として発展を続ける様子がよくわかります（中央左が権現山）

太田川帆掛船と山陽自動車道



昔

大正時代に現在の高瀬堰付近を帆掛船が行き交う様子です。下流から上流へ流れを遡るには帆を使い風力を利用しました。太田川の舟運は明治時代に最盛期を迎えましたが、やがて鉄道や道路など陸上交通の発達や、水力発電所建設で水量が減るなどして昭和初期にはほぼ下火になりました（写真は『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載）



今

現代の交通の重要地点、太田川をまたぐ山陽自動車道です。広島インターチェンジは昭和63（1988）年に開通しました

びしゃもんてんはつとらさい
毘沙門天初寅祭



昔

毘沙門堂では、年が明けて最初の寅の日とその前日に「初寅祭」が開かれ、このときだけ毘沙門尊像が御開帳されていました。昔は遠方からも大勢の人が参拝するので、長い石段が人で大渋滞し、登り降りするだけで長時間かかったといいます（写真は『想いでの佐東町2』佐東地区まちづくり協議会、平成11年より掲載）



今

現在、ご住職は初寅祭のときだけおいでになり、初寅祭の準備や運営、お守りや御朱印の授与は岩谷地区の方々がご奉仕されています。長い石段の途中には屋台が並び、JR 緑井駅からの臨時シャトルバスも運行され賑やかに開催されます
*8 御朱印：神社や寺にお参りしたときに、証（あかし）として授けられる印

かべせん
可部線



昔

明治42（1909）年12月に、現在の可部線より簡易な軽便鉄道の古市橋駅・上八木駅間が開通しました。緑井駅は毘沙門天への参詣者を呼び込めることと、雲石街道に近く住宅が多かったことで今の場所が選ばれました。当時のルートは古市小学校の西側を通り、途中に古市駅がありました。昭和初期に電化に伴い今のルートに変更されました（写真は可部線SL〈昭和46年3月上八木～中島間〉『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載）

*9 軽便鉄道：日本では明治から昭和の中頃まであった簡易な規格の鉄道で、レールの幅がせまく、小型の車両で運行されていた



今

平成15（2003）年に可部駅から三段峡駅までが廃止されましたが、その後平成29（2017）年可部駅からあき亀山駅までが電化して延伸開業し、鉄道の廃止区間が復活した全国初の事例となりました。可部線は令和2（2020）年・3（2021）年連続で混雑率132%で西日本一となっています